事例No.	2818
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	中村　建治

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

森林資源を活用した商品開発及び多様な啓発活動。

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　個人表彰





森林資源を活用した商品開発及び多様な啓発活動。

中村（なかむら） 建治（けんじ）氏

DATA

事　例　名：森林資源を活用した商品開発及び多様な啓発活動
所　在　地：鳥取県日野郡日南町福塚1002-1
連　絡　先：TEL 0859-83-0180
　　FAX0859-83-0180
ホームページ：https://shiroitani-koubou.com

取り組みの概要

20年にわたる建築大工としての経験の中で、建物の解体などで長い年月をかけて成長した木が産業廃棄物として処分されるのを少しでも減らし、違う形で残したいとの思いを強め、2012年から本格的に寄せ木細工の制作に取り組み、白谷（しろいたに）工房を設立。マスコミ等を通じてその作品が話題となり、木のぬくもりを大切にした伝統的な寄せ木細工に森林環境や木に対する想いを込めて、小さな集落から世界へその価値を発信している。

評価された点

●地域資源を生かして、雇用につなげている点を評価。
●「廃棄物」や「ゴミ」だと思われたものを新たな形に変えて、人のための喜びを作っているとても素敵な活動である。雇用やワークショップまでも展開して、その世界観と価値観をより多くの人と共有しながら、持続可能な地域づくりの大きな手掛かりになる点を評価。
●廃材から寄木細工をつくることで、新産業を興すだけでなく、木の良さや郷土への思い、そしてSDGsへの貢献が認められる。
●20年にわたる経験と地域資源を生かした取り組みであることに加え、本人はまだ現役世代で若く、これからの活躍にも期待したい。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　～2012年

大工として感じたこと

・建築大工として経験を重ねる中で、民家を解体した木や端材が産業廃棄物として処分されるのを目の当たりにし、違う形で残したいという気持ちを強くする。

2012年～

「白谷工房」の設立

・本格的に寄木作品の制作に着手する。活動の拠点として、廃園となった旧保育園の施設を利用し、地元の集落の名前を掲げた「白谷(しろいたに)工房」を設立。





2013年～

県展で奨励賞受賞

・平成25年第57回鳥取県美術展覧会工芸の部に作品を出展し、その作風が評価され奨励賞を受賞。その後も4年連続で入賞する。



2015年～

・注文に対応できるよう、地元のスタッフ2名(その後4名)を雇用する。

商品が一躍話題に

・民放のドラマで主演女優が着用した白谷工房のアクセサリーが話題となり、全国からの注文が殺到。



2018年～

「創る」から「創り伝える」

・販路を拡大しながら、アクセサリー、ステーショナリー、家具等、次々と新たな商品開発に力を注ぐなか、製作体験を交えたワークショップを行うようになり、木の大切さや温かさを伝えている。



2023年～

鳥取県知事から功労者表彰

・林産物の生産や緑化の推進、森林保全の普及実践の取り組みが評価され、令和5年度鳥取県美しいもりづくり功労者知事表彰を受賞する。



今後の展望

・さまざまな商品開発やワークショップのコンテンツを充実させながら知名度を上げ、町との協同によりインバウンドの受け入れや、地域活性化による相乗効果。

受賞者のコメント

ふるさとづくり大賞を受賞し、心から感激しています。この賞は私だけでなく、地域の仲間たちの協力と情熱の賜物です。これからも協力し合い、地域をより良くするために尽力していきます。地元に誇りを持ち、皆で共に歩んでいきます。ありがとうございました。